

下水道事業のPRについて

中山道 桶川宿 歴史ある風景のイメージ

返礼品にマンホール蓋 あすから 桶川市ふるさと納税



桶川市は7月1日から、ふるさと納税の返礼品に市のマスコット「オケちゃん」がデザインされたマンホール蓋（直径60センチ、重さ40キログラム）＝写真＝を追加する。

マンホール蓋は、オケちゃんが中山道桶川宿を散策しているデザインで、33万円の寄付で16色、12万5000円で黒の蓋を受け取ることができる。受注生産で届くまで最大4か月かかる。展示用のスタン

ドも付く。返礼品と同じ蓋はJR高崎線桶川駅の東口周辺などで実際に使われており、市の担当者は「非売品のご当地マンホール蓋を返礼品に追加することで、市を知ってもらうきっかけを作り、下水道事業のイメージアップやまちづくりの一助になれば」と期待している。

読売新聞 埼玉版
令和4年6月30日（木）

「オケちゃん」ふた 桶川市が返礼品に

ふるさと納税、2種類

桶川市はふるさと納税の返礼品に、デザインマンホールふたを加えた。市のマスコットキャラクター「オケちゃん」や中山道桶川宿の景観が描かれており、同じデザインのもが市内で実際に使われている。

返礼品には新品1種類を用意。寄付額二十万円以上で十六色カラー、同十二万五千円で黒色のふたを受け取れる。いずれも展示用のスタンド付き。ふたは鉄製で直径六十センチ、重さ四十キログラム。申し込み人によっては市外のメーカーから直送される。全国のマンホールを写真に収めた「マンホールカー



返礼品に追加されたオケちゃんデザインのマンホールふた。カラー版と黒の2種類（桶川市提供）

ド」が人気を集めており、ミニチュアやふたのデザインを利用したコースターなどを返礼品にする自治体は増えているが、実物は珍しい。市企画調整課の担当者は「返礼品に追加することでより多くの方に桶川市を知っていただき、まちづくりの一助となれば」と期待している。（前田朋子）

東京新聞
令和4年7月12日（火）

埼玉新聞
令和4年7月5日（火）

中山道 桶川宿 歴史ある風景のイメージ

ふるさと納税で マンホール返礼品

桶川、オケちゃんデザイン
桶川市のふるさと納税の返礼品に1日から「オケちゃんマンホール蓋（ふた）」が登場した。



桶川市ふるさと納税の返礼品として新登場した「オケちゃんマンホール蓋 カラーと黒色（市提供）

中山道桶川宿の歴史ある景観と市民の木イチヨウを背景に、市のマスコットキャラクター「オケちゃん」が街並みを散歩する様子が描かれている。蓋の大きさは直径60センチ、重さ40キログラム。JR高崎線桶川駅の東口周辺や下日出谷高井地区で実際に使われている。

市へのふるさと納税33万円の寄付で16色カラー、12万5000円で黒色のマンホール蓋を受け取ることができる。展示用のスタンドもセットになっている。

マンホール蓋は専門のウェブサイトで交流サイト（SNS）で広く拡散されるほどブームが多く、特に「当地マンホール」といわれる地域の魅力が凝縮されたものは人気が高い。そのため桶川市ではこれまで約25年間使用していたペニバナをモチーフにしたデザインから、昨年度新しく「オケちゃんマンホール蓋」に変更した。

市企画調整課では「非売品の「当地マンホール蓋を、ふるさと納税の返礼品にする」として、より多くの方に桶川市を知っていただき、下水道事業のイメージアップや街づくりの一助になれば」と期待している。

マンホール蓋をカードにした「マンホールカード」も今後製作する予定。（高野里美）

